

KIBO NO NIJI きぼの虹

冬号

発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218



山崎教授（公共政策大学院、本フォーラム会長）、
鈴木北海道知事、寶金総長、秋元札幌市長、大泉函館市長
北大 広報・コミュニケーション部門撮影



ホームページ

主な記事紹介

- 二面 未知の外来植物との遭遇
- 三면 院生 NEXT DOOR 第1回
- 七面 大学文書館へ行く 第26回

北海道大学 大学院 愛甲 哲也
北海道 文書大 館 井上 高聡

自治体単独では解決が困難な課題が顕在化する中で、本学の教育・研究を社会に広げ、地域課題の解決に貢献することは、約150年にわたって北海道とともに発展してきた本学の責務であると考えています。その責務を果たすためには、自治体と本学全体が組織的につながり、効果的な連携を推進する「土台」を形成することが必要であることから広報社会連携本部が中心となり「北海道大学・自治体連携フォーラム」が2025年6月21日(土)に設立されました。

本フォーラムでは、学内での自治体連携の事例や自治体連携に関わる教員・研究者の見える化を図りながら、全体窓口として本学と自治体の組織的かつ学際的な連携を支援していきます。将来ビジョンとしては、自治体単独では対応困難な課題に多角的・専門的にアプローチすることで課題解決・北海道全体の活性化に貢献するとともに、自治体と連携して学際的に多様な課題解決に取り組むことで、本学の総合力が向上する、という好循環が生まれていくこと目指していきます。

6月21日(土)にフード&メディアカルフイノベーション国際拠点多目的ホールにて、本フォーラムの設立記念シンポジウムを開催

しました。シンポジウム当日は、北海道庁をはじめとする24の自治体から首長や副市長などの特別職を含む61名、本学の教員・研究者46名のほか民間団体などの参加者合わせて148名にご来場いただくとともに、オンラインでも56名が視聴するなど、

「北海道大学・自治体連携フォーラム」の設立について

北海道大学 広報・社会連携本部 社会連携部門 中村 健吾



Opinion!

総勢204名が参加する盛会となりました。

シンポジウムでは、寶金清博総長の開会挨拶に続き、包括連携協定を締結している自治体である北海道の鈴木直道知事、札幌市の秋元克広市長、函館市の大泉潤市長を来賓としてお迎えしました。その後、行松泰弘理事が

ら本フォーラム設立の趣旨説明があり、続いて、本フォーラムの会長を務める公共政策大学院の山崎幹根教授による基調講演「北海道にふさわしい連携をめざして」を行い、さらに、斜里町の山内浩彰町長と国際広報メディア・観光学院の石黒侑介准教授、上士幌町の竹中貢町長と工学研究院の森傑教授による対談形式で、本学と自治体による具体的な連携事例を紹介し、自治体との連携の具体像を参加者と共有しました。

基調講演後の休憩時間には、寶金総長、鈴木知事、秋元市長、大泉市長及び山崎教授による記念撮影が行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。シンポジウム終了後に同会場にて開催した懇親会には、84名の方にご参加いただき、自治体関係者と本学の教員や研究者との間で活発な交流が行われ、今後の連携に向けた関係構築が深まりました。

本フォーラムは、今年度末までを試行期間とし、自治体の課題解決に向けた連携の手法等について検証した上で、来年4月より本格的に稼働する予定です。本フォーラムの詳細については、北海道大学・自治体連携フォーラムウェブサイト <https://forum.opshokudai.ac.jp/> をご覧ください。

未知の外来植物との遭遇



昨年6月末に毒性の疑いのある植物が、札幌キャンパス内で発見されたことをご記憶の方も多いでしょう。SNSで話題になり全国的に報道され、その後3週間は対応に忙殺されました。

きっかけは、6月24日の通報、SNSへの発信でした。農学部事務に記録のない毒性が疑われる植物が構内に生育していると情報が寄せられ、現地で写真を撮影する人だけに我が目を疑いました。植物園の中村剛先生の助言で施設部環境配慮促進課が立入禁止の柵を設置しました。北大構内で「猛毒」「世界で最も危険な」植物が見つかったとマスコミを賑わせ、学内外から確認の依頼が殺到し、確認と対応に奔走しました。

翌日には、総合博物館の首藤光太郎先生と植物園の東隆行先生に加え、環境省、北海道、札幌市の担当者も集まり、種子の散布を防ぐための花序の切除、サンプル収集をして、首藤先生に同定作業をお願いしました。薬学研究院の脇本敏幸先生には化学成分の分析を依頼し、医学研究院の氏家英之先生に皮膚への影響と治療法のアドバイスを求めました。学内の植物調査を委託している「さっぽろ自然調査館」は急な依頼にも関わらず、2日間でキャンパス全域を踏査してくれました。このような対応が取れたのも、日頃からキャンパスの生態系を調査し、管理している教職員と関係者のネットワークがあったからの賜物だと思っています。

首藤先生の同定は難航しました。結局は、類似種の標本が国内にないこと、原産地でも分類に混乱があることから、当初報道された種の仲間でありそうなものの、どれかは確定できないという結果でした。脇本先生の分析で、光毒性を持つメトキサレンが高濃度に含まれることが確認されました。氏家先生によると、樹液が皮膚に付着しても、直ちに洗い流し、日光に当てないようにすれば皮膚炎を予防、軽減できるという見立てでした。短時間で行っていただいた分析の成果と対応について7月15日に、14社の記者、7台のテレビカメラの前で説明しました。過去最多だったそうです。科学的・客観的に事実を淡々と伝えたことで、当初の「猛毒」「世界で最も危険な」というキャッチフレーズも鳴りを潜め、その後の報道も沈静化しました。改めて本学の学際性が発揮され、大学の役割を示せたのではと感じています。



2025年のオオハングンソウ防除作業

一方で、札幌市内でも発見されたその植物の侵入経路は不明のままです。その後、地上部は何回も刈り取りと抜き取りを行い、冬を迎えました。地中に残る種子や根から、来春にはまた成長してくる個体もいると予想されます。当面は立ち入り禁止と観察、刈り取りと抜き取りを続けます。札幌キャンパスには、この植物以外にもアライグマやオオハングンソウなど、在来の生態系に影響を及ぼす種が生息・生育し、教職員と学生による防除活動も行われています。環境省により自然共生サイトにも認定された豊かな生態系を守る取り組みが続けられていることを、少しでもこの機会に知っていただけると幸いです。

いじわるじいさん

『透析を止めた日』(堀川恵子著)は、腎不全患者の姿を記録したノンフィクションである。末期の苦しみ悶える時でも、緩和ケアを受けられないという現実を患者の妻が告発した▼このケア、本書が契機になって思いがけない展開をする。出版の数か月後には、政権与党に腎疾患についての勉強会が発足。2025年6月に閣議決定された「骨太方針2025」には、限られた疾病のみが対象となっている緩和ケアの中に、腎不全が明記されたのだ▼ただ、同じ閣議決定の中に気になる一文があった。薬の「スイッチOTC化」という耳慣れない言葉…。OTCとは処方箋なしで買える薬のことで保険適用除外となるらしい。軽い不調には自身で対処するように、という内容のこと。慢性病の薬はどうなる?と、不安がのしかかる▼長年変化のなかった緩和ケアである。一つでも認められれば朗報か。だが、病気になるでも医者に掛かりにくくなるのは困る。いや、国の医療費高騰も配慮せねば、と定まらぬ思いに揺れる目に、一つの記事が飛び込んできた。政府は「防衛費増GDP比2%2年前倒し」で達成する方針という(朝日新聞10月23日)▼予算に「前倒し」の余裕があるのなら、と思う。我々も医療費の節約に努めるから、必要な医療は受けさせて欲しい。(今日子)

院生 NEXT DOOR

第1回



北大生のおよそ3人に1人が大学院生。
「院生の生活ってどんな感じ?」「どんな研究をしているの?」
身近にいるけど、実はあまり知らない院生のリアルを、現役の院生に
紹介してもらいました。あなたの身近な院生が登場するかも…?

理学院

元恐竜少年の院生生活 @総合博物館

北海道大学大学院 理学院 自然史科学専攻 博士後期課程 3年 高田 健太郎



私は総合博物館で恐竜の研究をしています。院生として日々を過ごすこの博物館は、幼少期の私にとって憧れの場所でした。小学生のころに見たマンモスの臀部の冷凍化石や、中学生のころに見た少し窮屈そうにしゃがんだ巨大なタルボサウルスの姿を、今でもはっきりと思い出せます。大きな影響を受けた場所で、今こうして研究できていることを大変ありがたく感じています。博物館にいますと、ときどきイベントの手伝いをする機会もあります。先日はSTVとのイベント「SDGsデー」で恐竜のワークショップを担当しました。目を輝かせて参加する子どもたちに何かを教えてあげられたときは、昔この博物館からもらった恩を少しだけ返せたような気持ちになりました。最近の出来事では、福井県で開催された国際学会に参加したことも印象

深いです。今回の大きな収穫は、他の研究者と交流する中で新しい研究の種を見つけられたことです。現在はその準備を進めており、今後の進展がとても楽しみです。もう一つの大変な収穫は、気合の入った参加者向けのお土産で、特に学会のロゴが入った裨がお気に入りです。さまざまな出会いを楽しみながら、これからも実りある院生生活を送りたいと思います。



農学院

院生生活を支える柱「札幌スパーズ」

北海道大学大学院 農学院 食料農業市場学研究室 博士後期課程 吉松 良



自宅と研究室をひたすら往復する毎日が続く博士後期課程。同じ景色ばかりを見ていると息が詰まりそうになることもある。そんな私の日常を支えてくれている大事な趣味がある。それが、フットボール観戦、いや、イングランド・プレミアリーグのクラブ「Tottenham Hotspur FC(トッテナム・ホットスパー)」、通称スパーズの応援だ。

ロンドン北部・トッテナム地区を本拠地とするスパーズは、毎年優勝争いをするわけではないが、強豪には数えられるクラブだ。でも、なぜか応援したくなる魅力が詰まっており、気づけば私はすっかりこのクラブの魅力にハマってしまっていた。

応援といっても家でひとり静かに観るわけではない。試合の日はずすきののスポーツバーに赴き、スパーズサポーターたちと観戦する。勝てばチャント(応援歌)が響き、負ければみんなで肩を落とす。その空気はまるでロンドンのパブのようで、私の院生生活を支える時間になっている。

昨年八月には、その仲間たちと「札幌スパーズ」というサポーターズクラブを立ち上げ、その運営を行っている。運営といっても堅苦しいものではなく、観戦会を開いたり、SNSで情報を共有したりする、ゆるいけれど温かいつながりである。

私がここまで夢中になった理由には、このコミュニティの存在が大きい。学部時代を大阪で過ごした私は、「大阪スパーズ」の観戦会に入り浸った。そこで、高校教師、医療関係者、メディア関係者、日本在住のデンマーク出身やオーストラリア出身の方など、多様な人たちと出会い、「スパーズが好き」という一点でつながった経験は私の世界を大きく広げた。博士課程の生活はどうしても閉じた環境になりがちだが、サポーターズクラブという存在は「知らない世界」に触れるきっかけをくれる。

とはいえ、試合が始まれば職業も年齢も関係ない。ゴールが決まれば全員立ち上がり、失点すれば一緒に頭を抱える。試合後には「今日はここが良かった」と会話が飛び交い、負けた夜でも悔しさを分け合えば少し前向きになれる。こうした仲間との観戦は、応援の楽しさが何倍にもなる。

スパーズの応援とサポーターのつながりは、私にとって心の換気をしてくれる大切な存在だ。博士課程三年目となり、これからさらに忙しくなるだろう。それでもスパーズとその仲間たちがいる限り、私はきっと楽しくこの日々を乗り越えていけると思う。



教職員総代会議を対面開催

コロナ禍以降、オンライン開催を続けてきた教職員総代会議ですが、10月15日に農学系、11月12日に医歯薬系にて久しぶりに対面開催しました。

会議のテーマは農学部店、保健学科店で開催された無人営業としまして、活発な議論を行いました。「総代会議に向けて学生と事前に利用した」「『無人営業』より『24時間営業』と表現した方が利便性を強調できるのではないか」「現金が使えないと不便」「採算ベースになっているのか」「無人営業でどの程度、人件費が削減できたのか」「無人営業中におにぎりや弁当がないのはなぜか」「品揃えがコンビニと比べると見劣りする」「特定のパン類の売り切れが多い」など、出席した総代からは多くの意見が出されました。弁当・おにぎりなどは仕入れタイミングが朝のみなので、無人営業中に賞味期限が切れてしまう問題があると理解しましたが、何か良い方法がないか検討したいところです。

オンラインと異なって参加者の感情や発言の意図を読みとりやすく、対面開催の良さを実感したところです。今年度中に12月には理学系、2月には工学系でも対面で開催します。コロナ禍以前と比べて担当職員の態勢が縮小していますので、全ての総代会議を対面開催することは困難ですが、今後も対面開催を続けていく予定です。



医歯薬系の対面開催の様子

無人営業による営業時間の拡大と運営効率化の取り組み

北大生協再生3ヵ年計画では事業課題として学部店の損益構造の改善を掲げています。2025年総代会では「無人営業による延長営業」を事業計画の1つとして決定しました。

無人営業の事前準備として ①セキュリティ用防犯カメラ設置、②利用のしおり周知(店頭配布+各部局から学生・院生・教職員にメールで周知いただきました)、③生協加入・アプリ導入のための特設ブース開設を行いました。

- ・ポプラ店：開始日 6/9(月) 無人時間帯：17時～翌11時
- ・保健学科店：開始日 7/1(火) 無人時間帯：15時～翌10時(現在は13時～翌11時)
- ・農学部店：開始日10/14(火) 無人時間帯：15時～翌11時
- ・歯学部店：開始日10/20(月) 無人時間帯：13時～翌11時

先行導入したポプラ店(北キャンパス)、保健学科店の実践とその結果・課題について報告します。

- ・ポプラ店：平均客数40名前後(夏休み中も変わらず)、有人営業終了直後17時から18時にかけて菓子、チルド食品(サラダチキン・ゆで卵など)、カップ麺など、小腹を満たすための夜の時間帯に利用いただいている
- ・保健学科店：平均客数50名前後(夏休み中20名前後)、店舗が保健学科1Fにあることもあり講義開始前の朝7～8時の生協利用(特に飲料)を生み出すことができている。加えて有人営業終了後の小腹を満たすための菓子、加工食品の利用があります。
- ・組合員の声：今まで閉店していた時間帯に利用できて良い、パンの品切れが早い、レンジ利用の商品が少ない、おにぎり・弁当がない、有人時間帯しかチャージできない、など

組合員の声の回答としては無人時間帯に消費期限が切れるもの(おにぎり、弁当)は有人営業終了時に引き下げています。また電子マネーについては有人時間帯以外は銀行口座チャージのご利用をお願いしています。

研究等多忙になり、雪の季節になることも踏まえ、①レンジ利用の商品、調理パンや菓子パンなどの拡充、②利用条件を整えるための生協加入・アプリ導入のための特設ブースの継続を課題として取り組みを進めていきます。



SDGs 連載 第11回

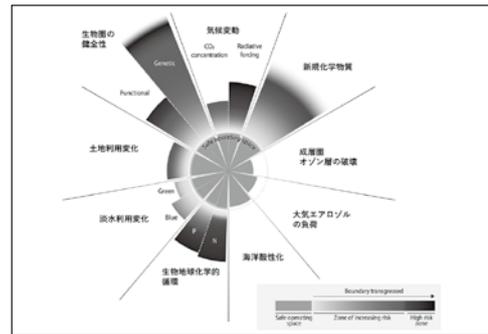
「プラネタリー・バウンダリーが鳴らす警鐘」

北海道大学SDGs事業推進部門 教授 加藤 悟



2009年9月、学術誌『ネイチャー』に掲載された論文「人類にとっての安全な機能空間 (A Safe Operating Space for Humanity)」で、プラネタリー・バウンダリー (地球の限界) が提唱された。この概念は、地球には気候や生態系を安定させるための「しきい値」があり、それを超えると環境が急激に変化し、予測不能なリスクが高まると警告するものだ。科学者たちは50以上の候補から、次の9つの重要領域を選定した。

- ① 新規化学物質の汚染 (プラスチックや有害化学物質)
- 2 成層圏オゾン層の破壊
- 3 大気エアロゾル負荷 (微粒子による気候影響)
- 4 海洋酸性化 (CO₂によるpH低下)
- ⑤ 窒素・リン循環 (肥料による汚染)
- ⑥ 淡水利用 (水資源の枯渇)
- ⑦ 土地利用変化 (森林伐採など)
- ⑧ 生物多様性の損失 (種の絶滅速度)
- ⑨ 気候変動 (CO₂濃度や地球温度)



9つのプラネタリー・バウンダリーにおける制御変数の現状 (Richardson et.al(2023))

2023年の評価では、9領域すべてが調査され、6領域 (上記の丸数字) でしきい値を超えているとされた。⑧生物多様性と⑨気候変動は1992年については国際条約が採択され、対策が進められているが、それ以外はモニタリングすら十分でないのが現状だ。

筆者が特に注目するのは⑤窒素・リン循環である。これらは炭素や水と並ぶ「生物地球化学的循環」で、生命維持に不可欠な物質の流れだ。

窒素は大気の約78%を占めるが、そのままではほとんどの生物が利用できない。自然界では窒素固定細菌が窒素をアンモニウムに変換し、硝化菌がそれを硝酸に同化してアミノ酸やタンパク質、核酸を合成し、食物連鎖に取り込まれる。余剰分は脱窒菌が嫌気環境で窒素に還元し、大気に戻すことで循環が成立する。しかし近代では、工業技術により大気から大量の窒素肥料が製造され、化石燃料の燃焼でNO_xも生成されている。自然界の窒素固定量は年間約1億トンだが、人為的固定量はその約2倍。過剰な窒素は水域の富栄養化を引き起こし、温室効果ガスの一つである一酸化二窒素を急増させているのだ。

リンも生命に不可欠だが、自然界では鉱物 (リン酸塩鉱物) として存在し、風化によってゆっくり溶け出し、植物に吸収される。余剰リンは海洋に流出し、利用されなかったものや動植物の死骸が海底に堆積し、堆積岩として固定される。自然界の風化によるリン供給は年間2,000万トン以下と推定されるが、リン鉱石採掘は年間2億トン以上で自然の約10倍。採掘リンの8割以上はリン酸肥料として使われるが、循環は成立していない。過剰のリンは湖沼や沿岸で富栄養化を引き起こし、逆にリン不足地域では農業生産が低迷する。サブサハラやアマゾン、ブラジル高地が典型例だ。

窒素循環では、工業的固定に対し人工的脱窒を増やす発想が重要である。廃水処理での脱窒や肥料使用の最適化など、複合的な戦略が求められる。

窒素やリンの循環の破綻は、地球システム全体の化学バランスを崩し、食料生産を危機に陥れるだけでなく、生物全体に悪影響を及ぼす。適切な対応を速やかに開始することが不可欠だ。

クラーク書籍便り Vol.25		クラーク9,10月一般書ランキング					
	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
『細胞の〜』は8年ぶりの新版、高額ですが全国的にもよく売れています。現代思想〜』のこの号の特集は「学問の危機」でした。『描かれた蝦夷地〜』常に境界が動き続けてきた北辺の国土像の変遷を時代ごとの地図で探る書。『プラハの〜』の親本は1987年刊行、チャベックの翻訳や彼に関する論考もある言語学者の滋味豊かなエッセイ集、名著です。	1	3か月でマスターする古代文明 10月号(2025年)	関雄二	NHK出版	6	弁護士不足	内田貴 筑摩書房
	2	TOEIC L&Rテスト 文法問題でる1000問	TEX加藤	アスク出版	7	描かれた 蝦夷地-北海道 イメージの500年	濱口裕介 山川出版社 (千代田区)
	3	基本憲法2	木下智史	日本評論社	8	共感の論理	渡邊雅子 岩波書店
	4	現代思想 2025 10 (vol.53-)		青土社	9	物語化批判の哲学	難波優輝 講談社
	5	細胞の分子生物学	中村桂子 (生命誌)	メディカルサイエンス・インターナショナル	10	プラハの古本屋	千野栄一 中央公論新社

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



集団や組織は人が集まってつくるものです。単なる人の寄せ集めではなく、独自のまとまりと生命を持つものだと思います。ヒトと同じように、誕生があり、成長があり、最盛期があり、そして衰弱するものでしょう。多くの場合、死を迎えます。ヒトに永遠の生命はありませんが、私たちは何となく、集団や組織には永遠の生命があるように思っているフシがないでしょうか。京都で一番古い店は、平安時代から続く仏具屋さんだそうで、約千年の歴史を持つということになります。でもこれは例外ですよ。

多くの組織は淘汰され、新陳代謝のようにして入れ替わってゆきます。どうしてなのでしょう？

集団や組織は、真空の中に生まれてくるのではなく、それを取り巻く様々な状況の中で、それらとのかかわりの中で生まれ、それらと交わりながら成長してゆきます。集団や組織の始りは、かなり混沌としたものをほらんでいる場合が多く、その分プリミティブな活力に満ちていると言えそうです。

しかし、集団が目標を達成してゆくには、なんらかの秩序と構造が必要でしょう。誰もが何でもやる、というような活動の仕方から始まって、やがては役割分担が生じて来るでしょう。リーダー的に引張ってゆく人、目標達成のために現実的な調整を行ってゆく人、集団内部のコミュニケーションの円滑化をはかる人、などなど。

そして、集団が集団としてのまとまりを保つためには、どうしても規範と呼ばれる一種のルール、決まりが必要で、明文化された決まりのようなはつきりしたものばかりではなく、不文律であったり、雰囲気的なものも含まれます。たとえば、同じ業種の中でも、組織による違いの大きさは、誰もがすぐ気づくものだと思います。その集団、組織に特有の立ち居振る舞いや雰囲気が生じます。見方を変えると、集団内の人は、似通ってくるの

こころの健康を考える ⑨

組織の健康を考える 一自滅回路

です。たとえば北大生には特有の雰囲気があり、本人たちが気づかなくとも、外からは一目瞭然であったりします。

役割分化、内部のコミュニケーションの活性化、相互に似通ってくることで、これらは作業の効率化につながり、集団の目標達成に寄与します。しかし、これがさらに進むと、役割は固定化し、コミュニケーションは特定の人の中に限られて外部とは生じにくくなり、相互に似通っているがゆえに刺激に乏しい、ということが起こります。実際、実証的な研究によっても、集団には生産性のピークがあり、その低下があります。内部のコミュニケーションが最も活発になったときには、すでに生産性の方はピークから下がりがつつある、と理解できるデータを見た時は、少し衝撃を受けました。関心が集団内部に集中して外の変化に非常に鈍感になり、外部の要請とずれが生じる現象もよく見られると思います。これは致命的であり得ます。

つまり、集団や組織が成長し、生産性を向上させてゆく要因は、ある時期からは衰退をもたらす要因となるわけです。集団や組織には、避けがたく自滅回路がはめ込まれている。改革、イノベーションというのは、この自滅回路の解体と再構成なのでしよう。しかしこれが簡単ではないことは、枚挙にいとまがないと言ふべきでしょう。米国精神科医サリヴァンの「ある時代を懸命に生き抜いた者は、次の時代に生きづらい」という言葉も浮かびます。

ところで、非行のような子ども問題が、実は家族の問題の表れであるように、集団の問題はその中で立場の弱い存在に表れるのではないかと感じることがあります。改革の糸口は、意外なところにひそんでいるのかもしれない。

ほけんのお話

11月18日、大分県大分市佐賀間で大規模な火災が発生しました。火災当時は強風注意報が出ており、風にあおられた火の粉が飛び火となり、火の勢いが増したとみられます。また、この地域は古くからの漁師町で、狭い土地に木造住宅が密集、道路も狭く、消火活動が難航し、187棟の民家が焼失する大災害となりました。

「火事で家が燃えたら、火元に損害賠償を請求できるのでは？」と思う方も多いかもしれませんが。火元の調査によりますが、一般的には、日本には『失火責任法（明治時代制定）』という法律があつて、民法709条では「故意や過失で他人に損害を与えた場合、賠償責任を負う」の適用外として、「火元に重大な過失がない限り、類焼（もらい火）による損害の賠償責任は負わない。」と定められています。日本は木造住宅が多く、失火者に過大な責任を課すと生活が成り立たなくなる恐れがあるので、軽い過失による失火は賠償責任なし、重大な過失がある場合のみ責任ありとした、つまり、火元の家は賠償について問われず、火災保険に加入していれば保険金が支払われ、一方、もらい火で損害を受けた家が火災保険に加入していない場合は補償がないということなのです。類焼被害に遭った側からすると「なんだとくお!!」と思うのも当然。しかし、火災においては自分で火災保険に加入して備えるしかありません。

今回の災害では、強風による自然災害と認定され、大分県は被災者生活再建支援法を適用され、住宅が全焼した世帯には最大300万円の支援金が支給されます。これに火災保険の保険金で生活を再建するというになります。

大学文書館へ 行こう

第26回 「修学旅行が描く物語り」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



修学旅行をきっかけに北大に入学した加藤セチ (1936年)

盛岡・青森間の鉄道が開通し、上野から青森までの東北本線が全通したのは一八九一年です。函館・札幌間の開通は一九〇五年、青森と函館を結ぶ青函連絡船は一九〇八年に運行を開始します。東京から札幌まで、鉄道と連絡船を乗り継いで行きます。可能となります。一九〇〇年前後、日本に鉄道網が張り巡らされるに伴い、鉄道を利用した遠方への修学旅行が行なわれるようになります。折しも、札幌農学校は一九〇三年に市街地からキャンパスを移転し、附属農場を臨む現キャンパスへ校舎を新築しました。一九〇七年に東北帝国大学農科大学として大学に昇格し、一九一八年には北海道帝国大学となります。修学旅行の恰好の見学地でした。

東京女子高等師範学校の修学旅行

一九一八年七月九日、東京女子高等師範学校（現お茶の水大学）の修学旅行一行が北海道帝国大学を訪れ、午前中に大学構内と第二農場、午後に植物園・博物館を見学します。北大総長

佐藤昌介は、東京女高師生徒に向けて「私の大学は大いに門戸を開放いたしますから、御希望者は遠慮はいらぬ」と、北大では女性も入学できると述べました。当時、女性が帝国大学に進学するルートは制度上作られておらず、一九一三年に東北帝国大学理科大学に三名の女性が入学した例があるのみでした。

この佐藤総長の発言に呼応したのが、東京女高師を三月に卒業し、四月から札幌の北星女子校の教員となっていた加藤セチです。加藤はOGとして修学旅行一行の大学見学に参加しました。加藤は、「佐藤昌介総長が『この学校は決して女子に門戸を鎖すものではない』とおっしゃった」「よしそれではもう一度勉強のやり直しをしよう」と決心した」と回想しています。その後、紆余曲折があり、加藤は九月に北海道帝国大学農科大学に全科選科生（すべての科目を履修できる学生）として入学しました。北大最初の、そして日本でも四人目の女性の大学生は、修学旅行をきっかけに誕生しました。加藤は後年、女性科学者の草分けの一人となります。

花巻農学校の修学旅行

一九二四年五月二〇～二一日に札幌を訪れた花巻農学校の修学旅行は、当時同校の教員であった宮澤賢治が引率しており、「修学旅行復命書」を記しています。二〇日に札幌に到着した一行は植物園・博物館を見学し、翌二一日に北大キャンパスを訪れています。「報告書」は、学生二名が出迎えて案内し、花巻出身の佐藤総長が予定を変更して一行に応対したと記しています。佐藤総長は生徒たちに向け、新

開地に農地を切り拓くよりも、古くからの農業地の旧慣弊風を改め日進の文明を摂取しなければならぬ農業者の方が覚悟と努力を要すること、今が農業において岐路となるような重要な時期であることを懇説しました。生徒たちは学生食堂で菓子と牛乳の饗応を受け、農学部・医学部の施設を見学しています。宮澤賢治は札幌の街を「ビューティフルサツポロ」と形容し、植物園や大学キャンパスの風景も「報告書」に記しています。

盛岡高等女学校の修学旅行

一九二六年六月、盛岡高等女学校の修学旅行一行が北海道帝



宮沢賢治が「清楚なる芝生と黒き楡の間馬蹄形に配置せられたる教室」と記した農学部の校舎群 (1920年代後半)

国大学を訪れ、佐藤総長と中央ローンで記念撮影をしています。その記念写真が、先頃、大学文書館に寄贈されました。寄贈者は、佐藤の右隣に写っている生徒富田貞のご息女戸田洋子氏（盛岡市在住）です。戸田氏のご母堂から伝え聞いている話によると、盛岡高等女学校は、同郷の名士佐藤が総長を務めている間、毎年、修学旅行で北大を訪問していたそうです。そして、富田貞はこの記念写真を終生、大事に持ち続けていたとい

います。修学旅行は北大を舞台として、参加者にさまざまな物語りを作り出したようです。



中央ローンで撮影した盛岡高等女学校の修学旅行記念写真 (1926年6月)

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■秋の共済企画「健康博2025」を行いました！

10月21日、22日に北部ウコトイセ店とトラベルセンターにて共済企画「健康博2025」を開催しました！企画は組合員の方々に自身の健康状態を知ってもらい、自身の健康から大学生活をより良くしたいと思ってもらうことを念頭に置いて、健康に関するいくつかのブースを設置したものでした（「ジチュエック、アルコールパッチテスト、泥酔体験、体脂肪率測定など）。参加者は1日目は226人、2日目は262人と多くの方に参加していただきました！

■10月総代のつどいを開催しました！

10月27日にHBAライラック食堂南テラスにて総代のつどいを開催しました。最初に新メニューの試食会を行った後、生協学生委員と生協職員さんとを交えた班で、様々な交流企画やそれを通じた意見交換を行いました。

今回の総代のつどいでは前回のつどいで得られた「交流時間を増やしてほしい」という声を参考にして交流に重点を置いた企画構成になりました。今後も総代の方に継続してもらえるような企画、新しく総代になりたいと思える企画作りをしていきたいと思います。



院生委員会

■院生交流会を開催しました！

10月31日(金)18時30分より、生協会館3階会議室にて院生交流会を開催しました！当初は「院生総代のつどい」として企画していましたが、総代に限らず広く院生組合員の方に参加いただける企画としました。

当日の参加者は院生委員3名+修士課程の院生5名で、お酒や食事を楽しまつ、普段の生活やそれぞれの研究内容についてなど院生ならではの話題で盛り上がりました。また、院生総代の方からは食堂の価格についてご意見をいただき、専務を通じて早速反映に向けた動きが進んでいます。

今回は1月9日(金)に開催予定で、院生に加えて学部4～6年生の方にも募集対象を広げる予定です！皆さまのご参加をお待ちしております！



留学生委員会

■ウエルカムパーティーを開催しました

新入留学生と既存留学生、日本人学生を対象として、ウエルカムパーティーを開催しました。例年中央食堂で行っていますが、今学期は北部食堂で開催しました。50名程度の学生が集まり、ミニゲームやクイズを楽しみ、軽食も振る舞われました。様々なバツクグラウンドを持つ人々と出会い、交流する機会を作ることができました。



教職員委員会

■教職員総代会議…10月14日、11月11日はWEBにて、10月10日は農学部、11月12日は保健学科で数年ぶりに対面開催を行いました。クラック書籍店の改装、無人営業店舗についての詳しいお話を聞くことができました。今後は12月9日理学部、2月10日工学部で対面、12月10日、2月12日にWEBにて開催予定です。

様々なご意見をいただければと思います。引き続きよろしくお願いたします。

■教職員委員会…10月16日、11月13日に定例会議を開催し、きぼうの虹の編集・総代会議の対面開催について話し合いました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。毎回Opinionや特集ページなどで、多くの教職員の方にご寄稿をいただいています。

【編集後記】

新しい1年が始まります。ここ数年、北大生協は、店舗改装や無人店舗化など、経営再建に向けた様々な事業改革を行っています。とはいえ、他業種の後追いの側面もあり、北大生協オリジナルの事業モデルを構築するには至っていないように思われます。新年を迎え、あらためて皆で新たな挑戦のあり方を考えていけたらと思います。今年もよろしくお願いたします。